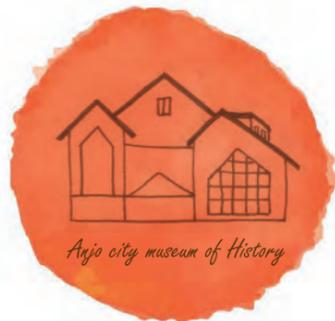


安城の歴史を現代に伝える情報誌

# れきしみち

2. 特別展「安城ゆかりの大名 家康を支えた 三河石川一族」
4. 特別展「幕府崩壊 一幕末維新を生きた地方の証言者たち」
6. 連載「安城歴史散策 昔ものがたり」
7. 安祥文化のさとではたらく人たち、常設展示室の展示替え
8. 松平シンポジウム、昭和の名作シネマ、市民ギャラリーよりお知らせ

2018.10  
No.110



特集：①家康を支えた 三河石川一族 ②幕府崩壊 一幕末維新を生きた地方の証言者たち

写真中央：姉川合戦図屏風(福井県立歴史博物館蔵)

写真右上：船舶模型 蒸気軍艦「観光丸」(1/50)(船の科学館蔵)



写真：高棚町新池の神明神社



れきしみち No.110 平成30年10月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地 TEL 0566-77-6655

第9回  
松平  
シンポジウム

# 家康、天下にあい構える —秀吉との対決と臣従—

天下統一を目指す羽柴秀吉に対して、  
織田体制維持を是とする徳川家康。  
家康が秀吉と対決する意味、  
そして臣従した経緯について考えます。

平成30年  
10/7(日)

時間 13:00~17:00  
事前申込不要

場所 安城市歴史博物館  
エントランスホール(約180席)

コーディネーター

平野 明夫 氏(國學院大學講師)

パネリスト

播磨 良紀 氏(中京大学教授)

平井 上総 氏(花園大学准教授)

福原 圭一 氏(上越市公文書センター学芸員)

## 昭和の名作シネマ上映会

月に一度、名作映画を歴博にてご覧ください。

場所 講座室 定員 80名 時間 10:00 ~ 当日参加可能

10/28(日) 1968年  
残雪

出演 舟木一夫、松原智恵子 時間 94分

雪国で出逢った建築家志望の学生と炭焼娘は惹かれ合うが、二人は実は兄弟だった…。純愛悲恋物語。

11/25(日) 1955年  
愛のお荷物

出演 三橋達也、北原三枝 時間 111分

受胎調整を訴える厚生大臣。しかし彼の一家は、その言葉とは裏腹に次々と子どもを産んでいくという喜劇。

12/23(日) 1962年  
キューポラのある街

出演 吉永小百合、浜田光夫 時間 100分

強く、明るく、たくましく生きる子どもたちをテーマに、高度経済成長期の庶民の暮らしを描いた青春ドラマ。

1/27(日) 1968年  
青春の鐘

出演 舟木一夫、松原智恵子 時間 82分

名門・依田家の家庭教師となった東大生の村瀬。小学生の春夫と相撲をとったりして母・宗子を驚かす。

2/24(日) 1962年  
銀座の恋の物語

出演 石原裕次郎、浅丘ルリ子 時間 93分

石原裕次郎のヒット曲の映画化。銀座を舞台に青春の夢と希望をかけた若者たちを描く娯楽大作。

3/24(日) 1959年  
ギターを持った渡り鳥

出演 小林旭、浅丘ルリ子 時間 78分

マイトガイ小林旭の世界を確立した作品。風光明媚なロケーションに、和製西部ともいわれた映画。

安城市民ギャラリーよりお知らせ

第75回 安美展



安美展は安城市唯一の公式の公募型美術作品展覧会で、市内にとどまらず、広く全国から募った美術作品を展示します。

【前期】日本画、書、工芸・彫塑 10/26(金)~11/4(日)  
【後期】洋画、写真 11/9(金)~11/18(日)  
【時間】9:00~17:00  
【休館日】10/29(月)、11/12(月)

## 安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館  
開館時間 / AM9:00 ~ PM5:00  
TEL : 0566-77-6655 FAX : 0566-77-6600

安城市民ギャラリー  
開館時間 / AM9:00 ~ PM5:00  
TEL : 0566-77-6853 FAX : 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター  
開館時間 / AM9:00 ~ PM5:00  
TEL : 0566-77-4490 FAX : 0566-77-6600

安祥公民館  
開館時間 / AM9:00 ~ PM9:00  
TEL : 0566-77-5070 FAX : 0566-77-6062



特別展 安城ゆかりの大名

平成30年

9月22日(土)～11月4日(日)

# 家康を支えた

# 三河石川一族

【観覧料】四〇〇円(中学生以下無料)  
文責：三島一信

これまで安城市歴史博物館では、「安城ゆかりの大名」として地元出身の大名やその一族を取り上げ、展覧会を開催してきました。今回は、家康の重臣で後に出奔した石川数正や、家康の朋友とされる石川家成など、家康が活躍した時代を中心に、三河石川一族の展示を開催します。

## ★三河石川一族のはじまり

石川氏は清和源氏の系統とされ、河内国石川郡石川荘(大阪府)に本拠をもった源義家の子義時をはじめとされています。その後、義基―義兼―頼房―忠教―忠頼―義忠―時通と続きました。また、石川氏は浄土真宗との関係が深い一族とされ、市内野寺町の本證寺住職の小山氏に関連するとして、時通は下野国(栃木県)の小山高朝の娘を娶り、小山姓を名乗ったとされています。時通の子の朝成から氏房―泰信と続き、政康の時に下野に來た連如から三河での浄土真宗本願寺派の普及を任せられ、一五世紀中頃

しようか。

秀吉は天正十三年三月に紀伊国雑賀衆、七月に四国攻め、八月には越中国の佐々成政を降ろし、着々と天下統一の歩みを進めていきました。数正は家康と秀吉との和睦を望んでいましたが、家康とその家臣は決戦に向けて動き出します。

同年十一月三日、突如数正は妻子や人質を連れて岡崎を退出(出奔)しました。この行動は家康領国の危機を招きました。人質は小笠原貞慶の子でした。小笠原氏の勢力範囲の筑摩・安曇郡が秀吉方になり、信濃国の半分以上が家康に敵対する地域となりました。また三河に隣接する伊那郡は数正が指図していた地域で、家康はこの地域を早々に押さえることで、どうにか信濃国の勢力を保つことができました。しかし、秀吉方優位はさらに高まりました。

その後家康は秀吉の妹と婚姻し、そして上洛することで、ついに秀吉に臣従しました。結果的に数正の出奔は家康と秀吉の対立を解消し、秀吉の天下統一を進めた事件といえるでしょう。



天正13年真田昌幸あて豊臣秀吉書状(真田氏歴史館蔵)

その後家康は秀吉の妹と婚姻し、そして上洛することで、ついに秀吉に臣従しました。結果的に数正の出奔は家康と秀吉の対立を解消し、秀吉の天下統一を進めた事件といえるでしょう。

康方、一揆方に分かれ戦いました。

## ★数正と家成

数正は忠成の孫で、家成は忠成の子供なので、二人は甥と叔父という関係です。ただ、叔父家成は天文三年(一五三四)生まれ、甥の数正ははつきりしませんが一歳年長とされ、天文二年の生まれといわれています。ちなみに家康は天文十一年生まれなので、二人は八、九歳年上です。いずれにしても同世代であり、ほぼ同じ時期に家康の配下として活躍していました。

家康領国が拡大する中、数正は数々の合戦で活躍し、また家康側近として働き、岡崎城代を任せられます。さらに数正は西三河・奥三河の守りを固める任務につきましました。家成は遠江国掛川城を守る役目を与えられました。天正八年(一五八〇)に家成は隠居しましたが、天正十三年以降、三河国内を追放されていた浄土真宗本願寺派寺院赦免にあたって母妙春尼とともに動いています。

## ★数正出奔

天正十年(一五八二)に本能寺の変があり、その後羽柴豊臣秀吉が台頭し、家康と対立します。数正は家康と秀吉との取次役になりました。天正十二年四月に小牧・長久手の戦いで家康方は勝利しましたが、大勢は秀吉方の優勢のままでした。同年十一月、家康劣勢の中、家康と数正ら重臣の子息を秀吉に人質として差し出すことになり、数正は家康の子於義丸(後の結城秀康)や自身の子勝千代らを大坂へ送り届ける役目をつとめました。大坂の滞在期間は長く、そこで秀吉との圧倒的な力の差を痛感したのではないで

## ★大名となった石川家

天正八年(一五八〇)に家成の跡を継いだ康通は、掛川城の守衛を任せられたと考えられ、本能寺の変に家康に近侍するようになったと思われまます。同十八年家康の関東移封で、上総国鳴渡(千葉県山武市)二万石の領主になり、慶長五年九月の関ヶ原の戦いでは、清須城を守り、戦後、石田三成の居城佐和山城を接収する役目を果たしました。翌六年には三万石の加増を受けて、大垣城五万石の城主になりました。康通の大垣城主時代は、関ヶ原の戦いで主戦場となった城郭の普請や城下町の復興整備に努めていたと考えられます。しかし慶長十二年に康通は死去しました。

遺領は、康通の子忠義が幼少のため、家康の命により家成が領主になりました。二年後の慶長十四年に家成が死去しましたが、忠義は跡を継ぐことができず、家成の外孫にあたる忠総が藩主となりました。石川家の危機はこれに止まらず、慶長十九年正月に忠総の実父大久保忠隣が失脚したことで、忠総は駿府の町屋に蟄居したとされます。

慶長十九年暮の大坂冬の陣を機に忠総は連座を放たれ、陣に加わりました。翌年の夏の陣でも戦功を重ね、名実ともに大垣城石川家の当主となりました。この忠総の家系は、後に伊勢国亀山藩と常陸国下館藩(茨城県筑西市)の藩主として明治初年まで存続しました。

## 特別展関連行事

### ●特別展記念講演会

「家康の重臣 石川数正」  
[日時] 10月6日(土) 14時  
[講師] 平野明夫氏(國學院大學講師)

[定員] 80名(先着順)  
[申込] 不要

### ●松本城と石川数正・康長

[日時] 11月3日(土) 14時  
[講師] 後藤芳孝氏(松本城管理事務所研究専門員)

[定員] 80名(先着順)  
[申込] 不要

### ●歴史講座

「家康の友 石川家成 恋敵 康通」  
[日時] 10月27日(土) 14時

[講師] 三島一信(本館学芸員)  
[定員] 80名(先着順)  
[申込] 不要

### ●展示解説

[日時] 9月22日(土)  
10月13日(土)  
各日14時

[申込] 不要

### ●展示関連イベント

「全国の石川さんデー」  
[内容] 全国の石川姓の方は特別展「家康を支えた三河石川一族」の観覧料が半額となります。受付にて身分証明書をご提示ください。  
[日時] 10月13日(土)  
10月14日(日)

### ●体験講座

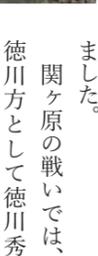
「アルミ缶アートで戦国武将の家紋を作ろう」  
[日時] 10月14日(日) 10時～12時

[講師] 宇野美紀子氏(NPO法人CAN缶アートG)  
[費用] 700円  
[定員] 25名(先着順)

[申込] 10月6日(土) 午前9時から電話で歴史博物館へ  
☎0566-776655



石川康通画像(大津市永順寺蔵)



国宝 松本城  
徳川方として徳川秀忠に従い、松本城に戻り上田城の真田昌幸に備え、そして上田城攻めでは冠者嶽の戦いに参戦しました。

慶長十八年(一六一三)の大久保長安事件に連座し、三長兄弟は改易となり、三長は豊後国佐伯(大分県佐伯市)の毛利高政預かりとなりました。寛永十九年(一六四二)、三長はそこで八九歳の生涯を閉じました。



国宝 松本城  
徳川方として徳川秀忠に従い、松本城に戻り上田城の真田昌幸に備え、そして上田城攻めでは冠者嶽の戦いに参戦しました。

慶長十八年(一六一三)の大久保長安事件に連座し、三長兄弟は改易となり、三長は豊後国佐伯(大分県佐伯市)の毛利高政預かりとなりました。寛永十九年(一六四二)、三長はそこで八九歳の生涯を閉じました。



姉川の戦いで活躍する石川数正(福井県立歴史博物館蔵「姉川合戦図屏風」より)

数正は出奔後、しばらく大坂に居たと考えられます。翌十四年正月に秀吉の弟秀長の領内に知行を与えられたとされます。しかしこれ以降、松本城主になるまでの動きは全く不明です。

## ★松本城主数正・三長

天正十八年七月、家康は関東に移封し、数正は松本城を与えられ、筑摩・安曇郡八万石を治めました。しかし朝鮮出兵で肥前国名護屋(佐賀県唐津市)に赴任して数正の領国治政は短く、また、松本在城も短期間と思われまます。文禄元年(一五九二)十二月頃、数正は死去しました。数正の跡は長男の三長・康長が継ぎました。所領は三長と弟康勝・紀伊守半三郎の三人に分けられ三長には五万八千石が与えられました。松本城普請や城下町建設が本格化したのは三長の時代でした。文禄年間(一六〇三)に城下町政策が積極的に行われ、それ以降三長は領内の新田開発や交通・流通などの政策に力を入れました。

関ヶ原の戦いでは、徳川方として徳川秀忠に従い、松本城に戻り上田城の真田昌幸に備え、そして上田城攻めでは冠者嶽の戦いに参戦しました。

慶長十八年(一六一三)の大久保長安事件に連座し、三長兄弟は改易となり、三長は豊後国佐伯(大分県佐伯市)の毛利高政預かりとなりました。寛永十九年(一六四二)、三長はそこで八九歳の生涯を閉じました。

石川忠総所用具足(亀山市亀山神社蔵)



# 幕府崩壊

—幕末維新を生きた地方の証言者たち—

平成30年 11月24日(土)~平成31年 1月14日(月・祝)

【観覧料】400円(中学生以下無料) 文責:野上真由美



## 幕末日本の不安定な世相と幕府の軍制改革

嘉永六年(一八五三)、浦賀沖にペリーが来航したことによって日本は動乱の時代を迎えることとなりました。大老井伊直弼の暗殺などの政治的な混乱だけでなく、安政年間には各地で大地震が頻発するなど自然災害も起り日本全体が不安定な情勢になっていきます。地方の人々も否応なくこの不安定な世相に巻き込まれていきました。この時代、地方の人々は江戸や京都などで起こる様々な事件に関心を向けており多くの記録を残しています。

幕府は薩摩藩や朝廷の公武合体派公卿からの圧力を受け、この難局を乗り切るために、幕政改革を打ち出します。そして、軍事面の改革の一環として陸軍奉行を筆頭に歩兵・騎兵・砲兵の三兵からなる西洋式陸軍を創設します。そして文久二年(一八六二)十二月三日、幕府は旗本の知行地から知行高に応じて農民を兵士として徴発する兵賦令を発令しました。

練を受けることになりました。

幕府歩兵隊の初陣となったのは、元治元年(一八六四)三月に勃発した水戸天狗党の乱の追討でした。柳助も一番の激戦となった十月の那珂湊の戦いに参戦しており、水戸藩の反射炉や水車を破壊したことなど記録に残っています。

慶応二年(一八六七)には第二次長州征伐に従軍しました。柳助は周防大島の戦いと芸州口の戦いに参戦し、大島の戦いではかすり傷をうけました。また、初めて乗った蒸気船について、「飛ぶがごとし」と表現しています。この戦いで幕府軍が長州藩に敗北を喫したことにより、幕府の権威は失墜し、幕府崩壊が決定的となりました。柳助ら幕府歩兵隊は三年あまりの間に水戸から長州へと全国を駆け巡りました。

慶応三年四月、柳助は年季明けとなり安城村に帰りました。その後、柳助は幕府歩兵隊として従軍した記録を残しました。また、「久永石見守兵賦 竜(柳)助」と記された木札や銃弾・巾着など当時使用した品々も残っています。



船舶模型 蒸気軍艦「観光丸」(1/50) (船の科学館蔵)

## 特別展開連行

●特別展記念講演会  
「幕府軍制改革と幕末の動乱」  
[日時] 12月2日(日) 14時  
[講師] 保谷徹氏(東京大学史料編纂所教授)  
[定員] 80名(先着順)  
[申込] 不要

## ●歴史講座

「幕末維新の証言者たち—安城村柳助と石川部平—」  
[日時] 12月15日(土) 14時  
[講師] 野上真由美(本館学芸員)  
[定員] 80名(先着順)  
[申込] 不要



## ●展示解説

[日時] 11月24日(土) 12月23日(日) 1月5日(日) 各日14時  
[申込] 不要

## ●体験講座

「マイ落款を作ろう」  
[日時] 11月24日(土) 13時~16時  
[講師] 石川桂氏(篆刻家)  
[費用] 500円  
[定員] 20名(先着順)  
[申込] 11月6日(火)午前9時から電話で歴史博物館へ  
☎0566-77-6655



柳助木札・銃弾等 (本館蔵)

## ●柳助駆け巡る

今回の展示の主人公の一人、柳助はこの時に徴発された農民です。柳助は天保十三年(一八四二)安城村に生まれました。生家は貧しく、柳助も子どもの頃から奉公に出ました。そして二一歳の文久二年に転機が訪れました。安城村の領主であった久永石見守領内から一三人の兵賦の徴発が行われました。柳助は徴発に応じ幕府歩兵として西洋式の調

## ●御一新と愛知県の誕生

明治二年(一八六九)の藩籍奉還から明治四年の廃藩置県までの一連の明治新政府の改革を、当時の人々は不安と期待を抱きつつ「御一新」と呼びました。

現在の安城市域はそれまで様々な領主による支配がされており、この廃藩置県によって重原・静岡・岡崎・西尾・刈谷・西端・菊間県となりました。明治四年十一月十五日それぞれの県は額田県に統一され、明治五年十一月には額田県は愛知県と合併しました。この間、この地域は領主や行政制度が目まぐるしく変化していきました。新しい税制、戸籍の作成など近代国家への第一歩を踏み出したのです。安城村に戻った柳助や、遠く福島から重原に移り住んだ部平をはじめとした旧重原藩士もこの激動の渦に巻き込まれました。廃藩置県後、多くの重原藩士は福島へ戻りましたが、三河に残り帰農する者、新政府のもと地方行政を担う者、後に自由民権運動の指導者として活躍する内藤魯一など多くの旧藩士はたくましく激動の時代を生き抜いたのです。

明治維新一五〇年の今年、幕末動乱の時代をたくましく、そしてしたたかに生き抜いた名もなき地方の証言者の声に耳を傾けてみませんか。



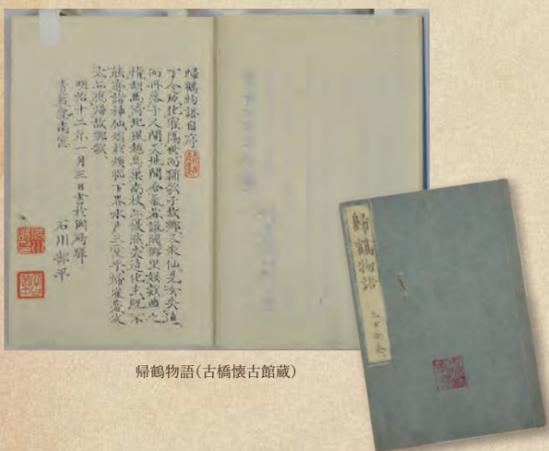
石川部平肖像画(常陸太田市教育委員会蔵)

## ●部平の苦難と重原藩の成立

もう一人の主人公、石川部平(友太郎)は、天保二年(一八三一)に水戸藩郷士の篠原家に生まれました。弘化元年(一八四四)に石川家の養子となり名を友太郎と改めました。友太郎は郷土加倉井砂山らに師事した後、江戸の昌平坂学問所でも学びました。帰国後は歴史書『近世略史』の編纂にも携わりました。

この当時の水戸藩は、九代藩主徳川斉昭による藩政改革が行われていました。斉昭が創設した藩校弘道館では「尊王攘夷」という思想が生まれ多くの幕末の志士たちに影響を与えました。しかし、急速な改革は水戸藩内に改革派(天狗)と門閥派との対立をもたらしました。改革派はその内部でも抗争を繰り返しました。孝明天皇からの勅書の返納問題で鎮派・激派に分裂し、元治元年三月、藤田小四郎ら激派の一部が筑波山で挙兵しました。「天狗党の乱」の始まりです。幕府は追討令を出し、水戸藩内でも激派追討のために門閥派と鎮派の一部が結び「諸生党」が結成されました。友太郎は諸生党員となり、八月二十一日に農兵を連れて水戸城近くで戦いに参加しました。同十一月、武田耕雲斎を首領とした天狗党が京に向かって西上を始めると、水戸藩の実権は門閥派が握りました。門閥派は激派のみならず鎮派についても取り締まりを行い、友太郎は二度投獄されました。

友太郎の苦難はさらに続きます。慶応四年(一八六八)戊辰戦争が始まると、激派が藩の実権を再び握りました。すると天誅と称し諸生党員の粛清を始めました。友太郎は身の危険を感じ同年三月、妻子を残し水戸を脱出し、その後逃亡生活を余儀なくされました。



藩物語(古橋横古館蔵)

## 第二回

安城歴史散策

# 昔ものがたり

文責：岩崎正樹  
(安城市歴史博物館 館長)

## 高棚の新開地

### ― 芦池・新池の開拓と発展 ―

高棚町北部の新池地区に神明神社という神社があります。当初は新池池中神社と呼ばれていました。鳥居をくぐると右側に昭和六三年（一九八八）に建立と表記された神社の由来を記す石碑が立っています。碑文には、「明治用水開削の明治十三年以降県内外から開拓民が入植してきたが開拓は大苦行 団結意識を高めるためここに氏神様を祭る 同一五年に祠を仮安置し一八年に現在地に本格的に神社を築いた」とあります。明治用水が開削された結果、高棚村地内北部にあった芦池や新池などの溜池が、灌漑としての必要性がなくなり、農地へと

開墾されることになりました。芦池と新池はまわりよりやや高いところにあつたため、水抜き水路を作らなくても堰を切れば簡単に水が抜け、芦池と新池合わせて八〇町歩（約八〇ヘクタール）の農地を得ることができました。池底は流水によって肥沃な堆積土であると思われていましたが、開墾を始めるのと重粘土無機質の痩せた土でした。畦と水路を造り、農道を開き耕耘します。次に水田の高低をならし、土砂の運搬をします。粘性の強い粘土が重い開墾にこびりつき、ヘラでそぎ落としながらの作業は重労働です。痩せ地には多量の肥料が必

要です。開墾当初は稲一株に数粒しか糶がつかず、生活を困窮させました。芦池と新池の開拓地には、明治一三年（一八八〇）にまず碧海郡熊村（現刈谷市逢妻町熊地区）出身の深谷兼次郎をはじめ六人が入植しました。その後、海東・海西・知多郡・岐阜県、近くは碧海、幡豆郡から多くの入植者がありました。しかし、新天地へそれなりの覚悟をもって入植してきたはずでしたが、開墾の大苦行はその決意を砕くものでした。定着率は明治二〇年代を通じて三割程度と低迷しました。

そういう状況のなか、出身地の違いから芦池地区の共同体意識はそんなに強いものではありませんでした。そこで最初に実現させようとしたのが、団結意識を高めるための神社の建立でした。明治一五年（一八八二）、地主田中勘七郎から土地の寄進を受けて仮神社を建てました。明治一八年（一八八五）には仮神社を再度田中から土地の寄進を受けて移転鎮座しました。その後、明治二〇年（一八八七）に、九月と一〇月の二回にわたって正式の神社としての資格をもらうために高棚神明神社の内に祀られている山神社の移転を愛知県知事に願ひ出しましたが許可されませんでした。神社建立に向けて、住民のできる限りでの寄付や申請に向けての



高棚町新池の神明神社

寄り合いを重ねる中で、池中神社は次第に団結と崇敬のシンボルとして住民の心の支柱となりました。さらに村の団結を高めたものに、明治二二年（一八八九）の池中組合の発足と組合決議証があります。決議証は、旧正月（正月一五日）の初寄合に総代が神社の前で読みあげ誓約していました。決議証は全部で六条からなり、第四条に「私有品といえども、日没後や日の出前にはみだりに出し入れしないこと。もしやむを得ない場合には、そのことを組の総代に届けること。」とあり夜逃げの防止を、第五条には「組合の集会や道の掃除など、皆が共同作業するときに理由もなく欠席したものは、不参料として一日につき三〇銭の割でお金を出すこと。」とあり、団結と公的な奉仕に対して自分勝手なことを戒めています。

精神的団結を図るだけでなく、実際の生業において実利のある互助的な作用をなしたものに「肥料連署借用約定書」があります。代金の未納を心配して業者が肥料の掛け売りをしてくれないことへの対策としてこの約定書が作られました。借財が払えない場合の申し合わせを決め、米のとれる時期になっても支払えなくなった組合員の借財は、共同で払うことを商人に掛け合いました。あちこちの肥料仲買人も組合を

## 安祥文化のさとではたらく人たち

市民ギャラリー

「管理人」



### Q1 どんなお仕事内容ですか

展示会を開催するお客様の作品の搬入・搬出に立ち合うとともに、館内における利用の規則作業のための注意事項もお話しています。利用後には貸出備品の数の確認とともに、ピンや釘が壁面に残っていないかの確認もおこないます。また、ギャラリー主催の企画展においては、作品の搬入や掲示、撤去や搬出作業のサポートをおこなっています。

### Q2 お仕事で心がけていることは

ハンコや脚立を用意して高所で作業をすることもありますが、誰もが安全におこなえるよう最大限の注意をはらっています。複数人で作業をするときは、相手との呼吸を合わせないとケガにつながることもあります。安全確認を十分におこなうようにしています。またお客様に説明したり、確認したりすることが多いので、お客様への言葉遣いにも気を付けています。

### Q3 お仕事の楽しさは

お客様、お子様、スタッフなど幅広い世代の皆さんと触れ合えることです。搬入時に作家さんとも直接話することがあり、作品を制作したときの気持ちなどを聞くことができるのはおもしろいです。お話を聞くと、作品がより深い角度から見られたりして、楽しいですね。この仕事に関わったことで、展示会が始まる前には想像以上にいるような準備や工程があつて初めて「展示会」というカタチになるんだということがわかりました。趣味で美術館や博物館に行ったときも、どんなふうに準備したんだろうという点から展示会を見て楽しんでいます。

### Q4 来館者へのメッセージ

ギャラリーの展示室は、広く皆さんが利用できますので、ぜひ個展の発表の場でも利用してみてください。利用の際、搬入・搬出時には私たちに気軽に声を掛けてください。

## 常設展示の茶屋内部の展示替えを行いました。

茶屋は江戸時代の東海道沿いの茶屋をイメージしています。今回は「東海道の橋」をテーマに展示替えを行いました。

東海道の三大大橋といえば、吉田宿（豊橋市）の吉田大橋、岡崎宿（岡崎市）の矢作橋、大津宿（滋賀県大津市）の瀬田唐橋です。幕府は東海道の主要河川には橋を架けることを禁じていたため、安倍川や大井川、天竜川などの大河川には橋が架けられていませんでした。そのため、旅人や絵師にとって大橋は、その宿場を代表する風景として印象付けられており、多くの浮世絵や紀行文、道中記に記されました。

今回の展示では、文久3年（1863）の第14代将軍徳川家茂の上洛を題材とした揃物「東海道名所風景」の中の吉田大橋と矢作橋を紹介しています。吉田では、手前に吉田大橋を渡る行列を大きく描き、画面の奥には吉田城を描いています。一方岡崎では矢作橋が描かれていません。矢作橋は安政2年（1855）の大雨で流されたのち、明治4年（1871）に架橋が完成するまでは通行不能でした。そのためこの作品では矢作橋が架かっておらず船で矢作川を渡る様子が描かれています。

資料保護のため、展示は今年12月末までを予定しています。また、9月29日から10月8日までの期間限定で、葛飾北斎が全国各地の有名な橋の中からユニークな構造のものを選び出して描いたシリーズ『諸国名橋寄覧』の「東海道岡崎矢はぎのはし」を展示します。北斎は矢作橋を大胆にデフォルメしてその大きさを表現しています。この機会にぜひ常設展にお立ち寄りください。

